

ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科
名前 川人 洋志
作成日 2021年3月17日

【責任】

建築学科に所属し建築意匠設計を専門として教育・研究活動を行なっている。主たる教育活動は建築設計に関わる科目として学部では空間デザイン論・建築史・建築計画・建築設計演習など7科目、大学院修士課程では、建築哲学特論、建築設計特別演習など2科目を担当する他、ゼミ生の研究支援を行う。美術部の顧問を務める。

【理念】

学生には、自らの感動、驚き、喜びを基盤として社会の要請に着実に応える豊かな建築を創造できる人材になってほしい。そのために学生の個性に柔軟に即応し、それぞれの能力、志向に合わせて目標設定を行って、きめ細かな教育を心がける。そのうえで常に自らを取り巻く世界に向けてその感性を瑞々しく研ぎ澄ませ、アンテナを張り巡らせてモノ、コトを捉え、学び、想像して自らが起源となるモノ、コトへと昇華できる能力（創造力）、日々の実践の中で切り開いた成果を理論に還元し未来の実践へと開き発展させる挑戦的マインドを持って行動できる力（企投力）と共に、自らの思考に閉じこもらず多くの人との対話を通じて臨機応変に多様な思考に開くことで自らの思考を鍛えていく力（受容力）を備える人材育成を行う。

【方針・方法】

上記理念を実現するために「1. 感動、驚き、喜びのキャッチボールをする授業を」「2. 講義（理論）と演習（実践）の連携と成果の確認」「3. 外の世界にも開く」「4. 学生の声を聴く」「5. 挑戦者マインドの醸成」の5つを方針として掲げている。

「方針1. 感動、驚き、喜びのキャッチボールをする授業を」

- ・創造するもの、それを享受するものの双方の原点となる感動、驚き、喜びを学生に伝えるだけではなく、学生から受け取ること。

【講義】

- ・講義で伝える言葉に拘り、その語り口、緩急に気を配っている。またそれを具体的に表現するために用いられるスライド写真に拘る他、スライドデザインにも配慮を行っている。
- ・講義への応答を確かめるためレポート課題の成果で優れたものを学生が自ら発表して教員、学生相互に議論する機会を設ける。

【演習】

- ・課題制作過程において学生一人一人の案に作品エスキス（構想案を評価し効果的な助言を行って作品の完成を支援すること）を通じて向き合い、制作の根源となった感動、驚き、喜びを聞き取るだけではなく、引き出して、作品へと昇華させる。
- ・課題成果で優れたものを学生が自ら発表する講評会を行い日々の成果の集大成として教員、学生相互に議論する機会とする。

【ゼミ生研究支援】

- ・毎週行われるゼミにおいて日々の成果を学生自らが発表し、教員、学生相互に議論する機会を設ける。

【美術部活動】

- ・一年に数回、展覧会を開催し、作品発表を行うとともに開催初日に顧問、指導員、クラブ生相互に議論する機会を設ける。

「方針2. 講義（理論）と演習（実践）の連携と成果の確認」

- ・講義と演習が緊密に連携していることを講義、演習の日々折々に示す。

【講義】

- ・講義では、理論を講じるだけではなく常にその実践例を示し、理論と実践の繋がりを

意識させる。

・講義後半に講義内容の理解ができているかどうか、教員、学生相互に確認するために小テスト、小レポートを行い結果をフィードバックする。

【演習】

・折にふれて具体的講義名とともに理論を復習する。
・作品講評は、複数の教員による複眼的視点で行い、その講評を基として評価を行う。

【ゼミ生研究支援】

・ゼミは、講義とエスキスを絡ませて行うことで理論と実践が常に交互に行き交う機会とする。
・設計競技応募作品、卒業・修士設計成果の講評は、複数の教員による複眼的視点で行い、その講評を基として評価を行う。

「方針 3. 外の世界にも開く」

・日々の演習では、常勤と連携し道内一線で活躍する建築家が非常勤として指導にあたる。
・客員教授出題、審査、講評による設計競技開催を通じて学外の建築理論、手法にふれる機会を設ける。
・道内一線で活躍する建築家の講演会企画を行う。
・設計演習の優れた成果を学生建築作品集（アニュアルブック）として年に一回発刊し、学外にも広く公開する機会を持つ。アニュアルブックは、学科 HP にも掲示する。
・卒業設計中間講評会、最終講評会に道内一線で活躍する建築家を招き講評を行う。

「方針 4. 学生の声を聴く」

・PF 面談の成果を学科会議 FD で共有する。
・授業評価アンケート結果を参照する。
・ゼミ、授業の合間に学生との懇談を行う。

「方針 5. 挑戦者マインドの醸成」

・授業始業時間、レポート、演習課題提出締め切り日時の厳守を徹底し、挑戦者に相應しいふるまいを示す。
・学外で公募される建築設計コンペや卒業設計作品コンクールへの応募を奨励する。
・最新の理論、実践を常に紹介するために講義スライドは、毎年アップデートする。
・一級建築士資格試験対策エクステンション講座を企画実施し資格取得を奨励。

【成果・評価】

・授業評価アンケートでは、担当する全ての科目の満足度がほぼ 80%を超えている。
・卒業設計作品コンクールで入選作品があった。
・ゼミ指導において日頃の成績が振るわない学生に建築設計への高いモチベーションを持たせ、卒業設計コンクール入選を果たした。
・一級建築士資格試験対策エクステンション講座受講者率が 70%を超えた。
・美術部展覧会を開催した。

【目標】

・豊かな建築を志向する学生を多く育てる。
・学外との交流を行う機会を多くとる。
・日々の試行、勉強会の機会を通じて TS を深化させる。